

◆佐渡金銀山の情報をお伝えします



佐渡金銀山だより

Sado Gold and Silver Mine Newsletter



旧西三川小学校
笹川分校

笹川区民運動会の様子
毎年7月に開催

Sado Gold and Silver Mine Newsletter **第4号** INDEX

- 2~3 ▶重要文化的景観選定 佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観
- 3 …… ▶金銀山ニュース①
- 4 …… ▶国重要文化財指定新潟県佐渡奉行所跡出土品
▶金銀山ニュース②
- 5 …… ▶首都圏向け佐渡金銀山講演会 ▶世界遺産連続講座
▶佐渡金銀山 文学碑を訪ねて② ▶金銀山ニュース③
- 6 …… ▶鶴子銀山関係遺跡発掘調査速報 ▶寺院建造物調査
▶金銀山ニュース④
- 7 …… ▶佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会
▶史跡保存管理計画策定委員会
▶佐渡金銀山調査指導委員会文化的景観専門分野会議
▶金銀山ニュース⑤
- 8 …… ▶佐渡金銀山の価値を補完する文化財 —佐渡金銀山絵巻—
▶平成23年度 今後のイベント情報

Vol.4
2011.9.30



佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観

重要文化的景観選定

平成23年5月20日に開催された国の文化審議会において、「佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観」を重要文化的景観に選定するよう答申が出されました。

文化的景観とは、地域の人々の生活・生業によって形成された景観地のことで、平成17年の文化財保護法の改定により、新たに制定された文化財の保護制度です。

これまで、「近江八幡の水郷」や「四万十川流域の文化的景観」など全国で24件が選定されており、今回の答申により5件が追加され29件となりました。なお、新潟県内では初の重要文化的景観となります。

概要

今回の選定範囲は、佐渡市南西部の真野地区西三川川流域一帯の約519.3haです。

この地域は、平安時代に採掘が始まった佐渡最古の金山とされる西三川砂金山ゆかりの地で、明治5年の閉山後は、砂金採掘跡地や周辺空闲地の農地開発、砂金流し用水路の農業用水路への転用などによって、鉱業から農林業へと産業構造の転換がなされました。また、鉱山集落として栄えた笹川集落周辺には、砂金採掘によって形成された平坦地や独立丘陵・裸地・急傾斜地などが点在し、その特異な地形条件を巧みに利用した屋敷配置や、砂金採掘で生じたガラ石を用いた石垣などの居住形態をみることができます。

以下、重要文化的景観選定基準にそって当地域の文化的景観の特徴についてご説明いたします。

Ⅰ 鉱山・採石場・工場群などの採掘・製造に関する景観地

① 佐渡における砂金の代表的な産出地

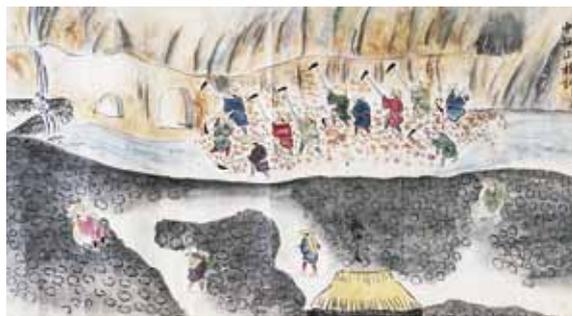
・火山活動によって金銀鉱脈が形成される(2,100万年前頃)



・地表に露出し風化した鉱脈が、河川などによって運ばれ、砂金の堆積層が形成される(1,650万年前～50万年前頃)



・砂金を含む堆積層が掘り崩され、砂金採取が行われる(平安時代～明治時代)



砂金を含む山を掘り崩す様子



立残山

② 長年の砂金採掘によって形成された平坦地・急斜面・独立丘陵などの独特な地形



虎丸山▶

砂金を含んだ山肌を掘り崩した痕跡が残る

2 水田・畑地などの農耕に関する景観地

◆砂金採掘跡地や周辺の空地等を利用した農地開発



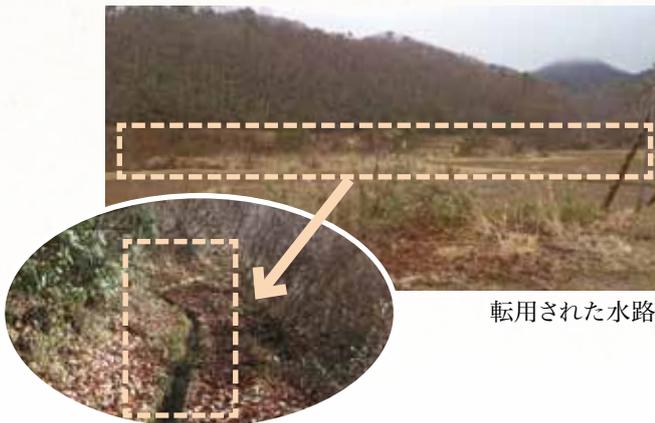
明治初期の農地開発図



現在の水田風景

3 ため池・水路・港などの水の利用に関する景観地

◆砂金流し用水路の農業用水路への転用



4 垣根・屋敷林などの居住に関する景観地

◆砂金採掘によって生じたガラ石の石垣への転用や、独特な地形を巧みに利用した家屋の配置構成



今後は、地域住民の生活生業の継承と景観の保護を両立させながら、地域活性化につなげていきたいと考えています。

金銀山 NEWS

①

松浦晃一郎前ユネスコ事務局長の佐渡金銀山視察

平成23年5月29日～30日、前ユネスコ事務局長の松浦晃一郎氏が佐渡金銀山を視察されました。

松浦氏は、1999年にアジアから初めてのユネスコ事務局長に就任し、ユネスコの組織改革に尽力して、2009年に退任されました。世界遺産登録でも指導的立場で活躍され、これまで数多くの世界遺産を視察されています。現在の世界遺産登録の動向を踏まえ、事前に佐渡金銀山について文献等で下調べをした上で、このたびの視察に臨まれました。

視察後には「佐渡金銀山は遺跡等がよく保存され、

400年間の鉱山の歴史が凝縮されており、価値は高い。石見銀山との違いを打ち出すため、金を中心とするべきである。今後は

短時間の視察でしたが、非常に有意義なご指導をいただくことができました。今後も引き続きご指導いただくことをお願いしています。



松浦浩一郎前ユネスコ事務局長(左)

国重要文化財指定 新潟県佐渡奉行所跡 出土品

佐渡奉行所跡は、平成6年に国史跡に指定され、同年から平成10年にかけて、当時の相川町教育委員会によって行われた発掘調査（調査面積18,542㎡）の際に、奉行所に関する様々な遺物が出土しています。

平成23年6月27日、出土品のうち928点が国の重要文化財（考古資料）に指定されました。

◆佐渡奉行所跡出土品

佐渡奉行所の歴史は、佐渡最大の金銀山へと発展した相川金銀山の統治を目的に、慶長8年（1603年）に鶴子銀山の陣屋が相川へ移転したことに始まります。この奉行所は他と異なり、役所（行政機能）に加え、寄勝場（選鉱工場）や寄床屋（製錬工場）、後藤役所（小判製造工場）等の鉱山に関する施設が併設されていたことに特徴があります。こうした施設があったことから、出土品には陶磁器・漆碗・火鉢・下駄といった日常什器に加えて、鉱山白・船（木製の水槽）・鞆羽口といった選鉱・製錬に関連する遺物が含まれています。また、役所敷地の南西端では、安土桃山時代末～江戸時代初期のものと考えられる製錬遺構が確認されており、鞆羽口や棒状土製品などの製錬用具が出土しています。

役所跡からは、中国の漳州窯・景德鎮窯の磁器、国内の肥前・志野・備前など、17世紀前半の高級な陶磁器が多数出土しており、佐渡金銀山最盛期の様相をよく示しています。また、寄勝場跡から出土した上磨と下磨で構成される鉱山白・船、桶などは江戸時代の選鉱及び製錬の実態を示す貴重な資料といえます。

こうした出土品のなかで特筆されるのは、役所跡の埋納土坑から出土した172点の鉛板です。鉛板は金銀製錬工程の一つである灰吹法で使用される鉛と考えられます。1点約40kgで総重量7tに達するこの鉛板は、『佐渡年代記』などの記載によると、明暦3年（1657年）もしくは延宝3年（1675年）に備蓄用として埋納した鉛板を享保3年（1718年）に掘り出した際に一部しか発見できなかったという記述があり、発掘調査で出土した鉛板が備蓄用の残りに該当すると判明しました。

今回の国重要文化財への指定は、奉行所本来の機能である役所の様相及び寄勝場における金銀製錬の様相を示す良好な一括資料として、また、江戸時代における鉱山関連遺跡の実態を考えるうえで重要であり、その学術的価値がきわめて高いことが評価されたものです。



主な指定品



鉛板

金銀山
NEWS

②

佐渡鉱山写真集刊行

平成23年8月、土木写真家の西山芳一氏による写真集『佐渡鉱山』が新潟日報事業社により刊行されました。

「本写真集には、佐渡鉱山の遺跡や遺構に、あらたな命を吹き込み、再生させる営みを見る思いがある」[本文より抜粋、文＝伊東孝氏（日本産業考古学会会長）]とコメントされています。

書店で販売していますので、ぜひご覧ください。



首都圏向け佐渡金銀山講演会

平成23年7月16日(土)、東京都渋谷区の表参道・新潟館ネスパスにおいて、佐渡金銀山講演会を開催しました。首都圏で初めて開催する講演会であり、首都圏在住の佐渡出身者など75名が参集しました。

東京新潟県人会の平辰会長と首都圏佐渡連合会の摩尼義晴会長のあいさつの後、佐渡市担当職員が調査成果を報告し、土木写真家の西山芳一氏が佐渡鉱山の魅力について語りました。さらに、国立科学博物館理工学研究部科学技術史グループ長の鈴木一義氏が佐渡金銀山の価値について講演を行い、参加者はふるさとの遺産についての認識を新たにしていました。

◆講演「佐渡金銀山の世界的価値」 鈴木一義氏

鉱業の成立には総合的な技術体系とそれを利用できる社会体制が必要だが、日本では早い段階で地の利と人の利がそろって鉱山が開発された。日本の鉱山の中核として、多くの知識人や技術者が佐渡に来て鉱山を開発し、その経験を佐渡から各地の鉱山へ伝えていった。世界の鉱山の中で、金を製錬し貨幣まで造っていたのはおそらく佐渡だけだ。400年という長い歴史を持つ佐渡金銀山は世界に類例のない鉱山である。



世界遺産連続講座

平成23年度の世界遺産連続講座は、6月から9月にかけて新潟市と佐渡市でそれぞれ3回開催しました。

第1回では西三川地区の「笹川の景観を守る会」会長の金子一雄氏が同地区の重要な文化的景観選定に至る経緯を紹介し、今後の地域活性化等に向けた意気込みを語りました。

第2回では甲斐黄金村・湯之奥金山博物館長の谷口一夫氏が、「佐渡金山への序章」と題し、甲斐金山の山金採掘や粉成の技術を紹介しました。

第3回では新潟県世界遺産登録推進室の吉田博参与が、世界遺産における産業遺産の位置づけと海外の産業遺産との比較から浮かび上がるストーリー構築の重要性について説明しました。



佐渡金銀山 文学碑を訪ねて②

詩人・歌人・文芸評論家であり旅行家でもあった大町桂月(1869～1925)は、大正13年(1924)7月8日から21日にかけて佐渡を訪れています。金北山・金剛山・檀特山の三山がけをし、内海府・外海府をめぐり相川で佐渡鉱山を見学した後、「涼しきや地底一千二百尺」(写真)と詠んだ句碑が大立公園に建てられています。



この句は羽茂で詠んだ「鶯や十戸の村の能舞台」ともよく知られています。

金銀山 NEWS

③

佐渡金銀山学習教材を作成

佐渡金銀山への理解を深めてもらうため、小学生向けと中学生・高校生向けの学習教材『再発見!!佐渡金銀山』を作成しました。

この教材は佐渡金銀山の出前授業に加え、社会科や「総合的な学習」における郷土についての学習や世界遺産についての学習にも活用できる構成となっています。この教材により佐渡金銀山への理解がより一層深まることが期待されます。



鶴子銀山関係遺跡発掘調査速報

平成22年度に引き続き、平成23年6月14日から鶴子銀山に関する遺跡調査として、沢根地内にある「鶴子鉦山代官屋敷跡」の発掘調査を開始しました。調査面積は約250㎡で、10月末までの約4ヵ月間の調査を予定しています。

この遺跡は、天正17年(1589)に上杉景勝が銀山統治のために代官を置いたとされる場所で、慶長15年(1610)頃に廃止されたと考えられますが、絵図や記録類がほとんど残されていないため、代官屋敷の全容は判明していません。

現在、前年の調査で土坑(大型の穴)やピット(小型の穴)が確認された場所、鉦滓(製錬の際に出る不純物)が多く出土した場所を中心に発掘調査を行っています。これまでに、斜面を造成した平坦地を精査したところ、掘立柱建物の柱穴と思われるものや土坑、ピットが見

つかり、なかには柱穴が幅1間(約1.8m)間隔で並び、外周に雨落ちと考えられる溝を伴うものが見られました。また、調査区の北側では、

炭化物や焼土を伴う炉跡と考えられる遺構が複数確認されました。これらは当時の代官屋敷の全容を解明していくうえで重要な遺構となることが予想されます。

まだ調査中であるため詳細は明らかになっていませんが、今後、代官屋敷にどのような建物が建っていたのか、銀鉦山の製錬に使われた炉跡が残されているのかといった疑問点を明らかにしていきたいと考えています。



発掘調査の様子

寺院建造物調査

佐渡市では、現在、寺院建造物(お寺やお堂の建物)の調査を実施しています。

調査では、建物の構造手法(技術や技法)や間取の確認を行ない、佐渡の寺院建造物の宗派や年代ごとの特徴を明確にし、報告書にまとめます。

報告書は刊行後に、市立図書館でご覧いただくことができます。



両津地区河崎にある五郎兵衛堂(左:内陣の須彌壇 右:外陣の絵入り格天井)

金銀山 NEWS

④

ユネスコ世界遺産委員会に参加

平成23年6月18日から7月7日まで、フランスのパリで開催された第35回ユネスコ世界遺産委員会に新潟県の職員が参加して審議を傍聴するとともに、欧州の鉦山を視察しました。

今回の世界遺産委員会では、文化遺産21件、自然遺産3件、複合遺産1件の合計25件が新たに登録されました。日本が推薦する案件「小笠原諸島」と「平泉—仏国土(浄土)をあらゆる建築・庭園及び考古学的遺跡群」も諮問機関の勧告どおり世界遺産一覧表に記載され、世界遺産の総数は936件となりました。諮問機関が「情報照会」や「記載延期」を勧告したにもかかわらず、委員会で「記載」と決議される文化遺産が目立ちました(勧告と決議は「記載」、「情報照会」、「記載延期」、「不記載」の4段階で行われます)。

その後、木造建築のまちなみが良好に保存されているノルウェーの世界遺産レーロース銅山と、世界各国の砂金と採取道具が展示されているフィンランドのタンカヴァーラ黄金博物館を視察し、保存管理や相互交流について意見を交換しました。



佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会

平成22年の世界遺産暫定一覧表記載を受けて設置した佐渡金銀山世界文化遺産学術委員会では、世界遺産登録に向けた推薦書作成について検討を重ねています。



平成23年8月2日～3日に開催した第4回学術委員会では、委員が佐渡金銀山遺跡の構成資産候補のうち、鶴子銀山遺跡や西三川砂金山跡、相川金銀山に残る近世から近代の採掘跡を視察し、調査が進み全容が明らかになりつつある各鉱山遺跡について議論し評価がなされました。

現在は佐渡金銀山の価値をどのようなストーリーによって組み立てていくかを検討しています。産業遺産として佐渡金銀山をとらえるため、鉱山遺跡だけでなく、そこで働く人々の生活や文化も加えて構成資産候補の検討を行っています。

今後の学術委員会では世界の鉱山遺跡との比較を行い、佐渡金銀山の世界遺産登録への方向性を検討する予定です。学術委員会は回を重ねるごとに議論が白熱してきており、推薦書作成に向けて着実に進んでいます。

史跡保存管理計画策定委員会

国史跡佐渡金銀山遺跡は、平成6年度に指定された佐渡奉行所跡などから平成21年度に追加指定された旧佐渡鉱山施設群など、江戸期以前から近・現代にいたる多様な遺跡で構成されま

す。これら時代や歴史的価値あるいは保存環境の異なる史跡群を未来へ伝えるため、その保存や整備・活用の方針に関する計画を策定する史跡保存管理計画策定委員会を平成22年度に立ち上げました。

平成22年度は近・現代の旧佐渡鉱山施設群を対象に議論を進め、平成23年度は中近世までの史跡の保存管理について検討を進めています。



佐渡金銀山調査指導委員会

文化的景観専門分野会議

佐渡市では、市内の文化的景観調査・保存整備のため、景観デザイン・建築・歴史等の専門家からなる委員会を平成20年度に設置し、検討を重ねています。

平成23年7月26日に新潟県自治会館で開催した1回目の会議では、同年9月21日に重要文化的景観に選定された「佐渡西三川の砂金山由来の農山村景観」の今後の整備・活用方針や、昨年度より開始した相川地区の文化的景観調査の内容等について、活発に議論しました。

次回の会議では、これまでの調査・整備の進捗状況や今後の計画等について検討していきます。



金銀山 NEWS

⑤

新潟まつりで世界遺産登録推進運動をPR

平成23年8月5日の新潟まつり大民謡流しに、「ラブ・あいかわ・佐渡」として佐渡を世界遺産にする会などの有志で「佐渡を世界遺産に」のノボリを掲げて参加してきました。県職員や東北電力OBも一緒に参加し、「佐渡・相川」の文字の入ったそろいのゆかたで佐渡のPRもしてきました。

文・弾正成子



世界遺産推進基金を設立しました

佐渡市は世界遺産推進基金を設立し、佐渡金銀山を①守り伝えるための事業、②価値を証明するための事業、③保存活動を支援するための事業に取り組んでいきます。基金の詳細い内容については佐渡市の支所・サービスセンターの窓口には置かれているパンフレットをご覧ください。黄金の島の歴史を未来へつなぐため、多くの皆様のご支援・ご協力をお願いいたします。

佐渡金銀山の価値を補完する文化財 – 佐渡金銀山絵巻 –

佐渡金銀山に関連する文化財として、鉱山を描いた絵巻や古文書などの記録資料があります。

中でも江戸時代における佐渡の鉱山の様子を描いた佐渡金銀山絵巻は、国内外で100点以上の所在が確認されており、その数は他の鉱山と比べ群を抜いています。しかもその内容は、主として相川金銀山における採鉱・製錬・小判製造など一連の作業工程が詳細に描かれています。このように、佐渡金銀山絵巻が他の鉱山絵巻を圧倒する数と内容を誇っていることは、佐渡金銀山の重要性を示す大きな根拠になるとされています。また、佐渡金銀山絵巻が他の鉱山絵巻製作にあたっての模本となった可能性もあり、日本の鉱山文化を考える上で重要な資料といえます。

この佐渡金銀山絵巻は、江戸中期から幕末まで佐渡奉行などの交代の際に、鉱山の複雑な工程をわかりやすく説明するため奉行所の絵図師が製作し、提出したといわれて

います。絵巻は、同じ内容を描き継いだのではなく、基本構成はそのままにしながらも、部分的に修正が加えられ、その時々の新技術の導入や管理体制の変化などが反映されています。これら内容の異なる複数の絵巻を比較することで、江戸中期から江戸末期までの百数十年にわたる佐渡金銀山の技術や管理体制の変遷などを知ることができ、たいへん優れた資料だといえます。

さらに、金銀生産の技術以外にも、金銀山で働く人々の服装や髪型、建物やまちなみなどの描写もあり、江戸時代の鉱山史だけでなく近世社会史にとっても貴重な資料です。

この佐渡金銀山絵巻は佐渡にも数多く残されており、「佐州金銀山敷内稼仕方之図」（佐渡博物館所蔵）など10件が、平成23年3月1日、佐渡市指定有形文化財に指定されました。



「佐渡銀山往時之稼行絵巻物」（佐渡市教育委員会所蔵）

◆平成23年度 今後のイベント情報

※詳細はチラシやホームページ、市報さど、CNS等でお知らせします。

◆国指定重要文化財「佐渡奉行所跡出土品」公開

会 期：平成23年9月2日(金)～10月23日(日)

会 場：(財)佐渡博物館 2階特別展示室

公開中の「佐渡金銀山展」展示室で出土品の一部を展示します

◆鶴子代官屋敷跡現地説明会

日 時：平成23年10月16日(日)

◆午前の部10時～11時 ◆午後の部14時～15時

※小雨決行とします。

会 場：林道国仲北線 佐和田地区沢根五十里地内

佐和田サービスセンターに集合のうえ、バスにて現地へ向かいます。午前の部9時半出発、午後の部1時半出発。

その他：遺構保護の為、午前の部・午後の部ともに50人の制限とさせていただきます。

※申し込みは佐渡市世界遺産推進課へ電話でお願いします。

◆重要文化的景観選定記念イベント

日 時：平成23年11月12日(土) 午後

会 場：旧西三川小学校笹川分校

内 容：現地見学会、事例報告

◆佐渡金銀山世界遺産講演会

日 時：平成23年11月19日(土) 午後

会 場：アミューズメント佐渡 小ホール (佐渡市中原234-1)

講 師：八重樫忠郎氏

(平泉町建設水道課課長補佐、「平泉」の世界遺産登録に尽力)

◆佐渡金銀山世界遺産国際シンポジウム

日 時：平成24年3月20日(火・祝) 午後

会 場：朱鷺メッセ マリンホール (新潟市中央区万代島6-1)

講 師：パトリック・マーチン氏

(国際産業遺産保存委員会会長)

バリー・ギャンプル氏 (世界遺産コンサルタント)

西村幸夫氏 (東京大学大学院教授) ほか